

表彰関係 Prizes

賞の種類：2008年日本放射化学会賞・奨励賞（日本放射化学会）
 受賞件名：シングルアトム分析手法を用いたラザホージウム、ノーベリウムの溶液化学的研究
 受賞日：平成20年9月26日
 受賞者：豊嶋 厚史（超重元素核化学研究グループ）

賞の種類：科学研究費補助金審査委員の表彰（独立行政法人日本学術振興会）
 受賞件名：科学研究費補助金第一段審査委員の表彰
 受賞日：平成20年10月24日
 受賞者：大貫 敏彦（重元素生物地球化学研究グループ）

賞の種類：平成20年度分子科学会優秀講演賞（分子科学会）
 受賞件名：巨大トンネル磁気抵抗効果を示すC₆₀-Co共蒸着薄膜の電子・磁気状態
 受賞日：平成20年10月24日
 受賞者：松本 吉弘（極限環境場物質探索グループ）

賞の種類：若手表彰（独立行政法人科学技術振興機構）
 受賞件名：陽電子マイクロビームによる原子力材料のマイクロ劣化解析
 受賞日：平成21年1月28日
 受賞者：河裾 厚男（陽電子ビーム物性研究グループ）

プレス発表 Press Release

タイトル：「絶対零度で起こる未知の相転移（量子相転移）を解明－超伝導が起こる仕組みの解明を進展－」
 発表日：平成21年1月21日
 担当者：神戸振作（アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ）

タイトル：「フラーレン-コバルト薄膜の巨大な磁気抵抗効果の起源を解明－有機分子のスピンの流れる電子のスピンを偏らせる－」
 発表日：平成21年1月22日
 担当者：松本吉弘、境 誠司（極限環境場物質探索グループ）
 ※自然科学研究機構分子科学研究所、東北大学金属材料研究所、東京大学大学院理学系研究科との共同研究による成果。

タイトル：「微生物による白金族元素ナノ粒子触媒の作製に成功－微生物の不思議な力に迫る－」
 発表日：平成21年2月18日
 担当者：鈴木義規、大貫敏彦（重元素生物地球化学研究グループ）
 ※名古屋大学エコトピア科学研究所との共同研究による成果。

外国人研究者招聘 Visiting Scientists

年月日	被招聘者	招聘目的
H20.10.4～12.27	Selvakumar Sellaiyan インド マドラス大学原子核物理学科	陽電子ビームと理論解析を利用したイオン照射誘起材料改質の研究
H20.12.15～12.17	Peter Möller 米国 ロスアラモス研究所	核分裂の理論研究における講演および討論
H20.12.11～12.17	Andrey Andreyev ベルギー ルーバンカトリック大学	新たな領域の核分裂機構を解明するための議論
H20.12.24	Julien Gibelin フランス CAEN大学	代理反応による実験データ結果および最近の実験成果についての講演および討論
H21.2.1～3.17	Vasyl Lavrentev チェコ 核物理学研究所	C ₆₀ イオン衝撃効果に関する共同研究、最近の研究成果等についての情報交換および討論
H21.1.27～1.28	Hans-Joef Schulze イタリア 国立核物理研究機構・カタニア支所	ハイペロンの相互作用とハイパー核の性質に関するセミナーおよび研究討論
H21.2.25～2.26	Reinhard Neumann ドイツ 重イオン研究所(GSI)	イオン照射を利用したナノポア(ナノメートルサイズの孔)、ナノワイヤー、生体分子のプロープの作製技術についての議論
H21.2.16～2.26	井口 道生 米国 アルゴンヌ国立研究所	原子力機構の研究開発・評価委員会の先端基礎研究・評価委員会委員長として、先端基礎研究に関する中間評価の実施
H21.3.1～3.2	Peter O'Neill イギリス オックスフォード大学	クラスターDNAの生成機構とその酵素的な修復について最終的な実験データについての討論

基礎科学セミナー ASR Seminar

回	年月日	講演者	開催テーマ
345	H20.9.12	本橋健次 (東京農工大学)	電荷交換イオン衝突により誘起された分子や固体表面の原子過程
346	H20.10.10	板垣直之 (東京大学)	軽い核における多核子相関 -di-neutron からクラスターまで
347	H20.10.29	木村真一 (自然科学研究機構 分子科学研究所) ほか	第4回 JAEA アクチノイド科学ネットワーク研究会 シンクロトロン放射光とアクチノイド科学
348	H20.10.30	中田 仁 (千葉大学)	核準位密度に対する微視的アプローチ
349	H20.11.17	渋川雅美 (埼玉大学)	電気化学クロマトグラフィーの最近の進歩と今後の展望
350	H20.11.13	R.E.Walstedt (ミシガン大学)	Joint Analysis of INS and NMR Data vis-a-vis Superconducting Cuprates
351	H20.12.9	宇都宮 聡 (九州大学)	マイクロ～ナノ～原子レベル核種挙動の重要性
352	H20.12.16	Andrey Andreyev (ルーバンカトリック大学) Peter Möller (米国 ロスアラモス国立研究所) ほか	核分裂に関する研究会 "Electron-capture delayed fission in the neutron deficient lead region" "Fission at the end of the nuclear chart (2) : Calculated fission properties of ¹⁸⁰ Hg following ECcapture on ¹⁸⁰ Tl" ほか
353	H20.12.22	真下 茂 (熊本大学) ほか	第1回超重力研究会
354	H20.12.24	Gibelin Julien (CAEN大学)	The surrogate method and other recent experiments performed at the 88"Berkeley Cyclotron
355	H21.1.30	高梨弘毅 (東北大学金属材料研究所)	スピントロニクス現状と将来展望
356	H21.1.28	吉村昌弘 (東京工業大学)	多成分化合物の安定相や準安定相の生成はどのような要因 に支配されているのか
357	H21.2.18	木野康志 (東北大学)	スタウ原子分子反応とビックバン元素合成
358	H21.2.25	Matthias Schadel (ドイツ 重イオン研究所 GSI)	Superheavy Element Research at GSI
359	H21.1.27	Hans-Josef Schulze (イタリア INFN-Catania)	Hypernuclei with a Microscopic Lambda-Nucleon Force
360	H21.2.25	Reinhard Neumann (ドイツ 重イオン研究所 GSI)	Recent progress of GSI Materials Research in high-pressure ion irradiation and ion track-based nanotechnology
361	H21.2.12	木原壮林 (熊本大学)	液液、液膜界面での電気化学反応

新研究員紹介 (任期付研究員) ASRC Researchers

- ①所属グループ
- ②出身地
- ③専門分野、最近の研究
- ④抱負など



漆原あゆみ Ayumi Urushibara

- ①放射線作用基礎過程研究グループ ②鳥取県鳥取市
- ③放射線生物学、DNA 損傷の生成、及び DNA 損傷による遺伝的不安定性の誘発に関する研究
- ④細胞生物学、分子生物学的手法を用いて、特にクラスター DNA 損傷の実態とその影響についての研究を行っています。専門は放射線生物学ですが、放射線により生じる DNA 損傷の生成について、放射線化学の手法を用いたアプローチを行いたいと思っています。



春木 理恵 Rie Haruki

- ①極限環境場物質探索グループ ②大阪府堺市
- ③放射光核共鳴散乱を用いた原子の拡散のダイナミクスに関する研究
- ④これまで進めてきた放射光核共鳴散乱による原子の拡散運動の研究を、極限環境場における拡散運動の解明に応用し、その結果、みんなの見える世界が広がったといえるような研究をしたいと思っています。

基礎科学ノート編集委員会 熊田 高之 (幹事) 香西 直文 鹿園 直哉 柴田 猛順 須貝 宏行
立岩 尚之 西尾 勝久 北條 喜一 中川 芙美子